第二学期始業式式辞

令和7年8月27日

※ 成果が多い夏休み・・・充実しましたね

お盆の前には少し雨が降り、涼しい日もありましたが、日本全国では酷暑・猛暑の暑い日が6月末から続いています。そのような中で、今日から二学期が始まります。夏休み中もいろいろな活動に取り組む皆さんの活躍はまさに暑さを吹き飛ばすほどの熱いものでした。

夏休みに入ってすぐ野球の県大会お疲れ様でした。昨年のリベンジで西条に勝ちましたが、松山商業に負けてしまい、惜しくもベスト4でした。養正会のOBの皆さんもその戦いぶりに盛り上がっていました。何よりも吹奏楽部や応援リーダーのもと、全校が協力していたというのが一番うれしいことです。野球部新チームも好調で秋の大会のシードをとりました。また、吹奏楽コンクールでは銅賞、テニス部もダブルスで男女そろってベスト16に進出するなど、各分野で成果を上げています。

地域との関わりにおいても、多くの皆さんが、小松小や小松中で行われた小松未来塾や駅前での小松町ふるさと祭りに参加してくれました。これから、大阪・関西万博で石鎚黒茶の出店に協力する生徒もいると聞いています。このあと行う表彰でも紹介しますが、皆さんが充実した夏を送り、多くの成果を積み重ねてくれたことを、とても頼もしく感じています。

※ できない理由ではない、どうすればできるか・・・逆境を乗り越える力を引き出す勇氣

夏休み中に情報の研究大会が岐阜県で開催され、専門学科情報科を持つ高校の方とお話しする機会がありました。ちょうど甲子園のベスト4が決まった時くらいだったので、岐阜県の方と沖縄県の方と話が盛り上がりました。

この夏、甲子園に出場した岐阜商業高校の横山温大選手の姿に、多くの人が胸を打たれました。

横山選手は、生まれつき左手の指がないというハンディを抱えながらも、工夫と努力を重ね、名門校のレギュラーという座をつかみ取りました。決して順風満帆ではなかったはずですが、自分にできることを一つずつ磨き続けた結果、仲間とともに大舞台に立つことができたのです。

横山選手が目標にした、ジム・アボット投手という選手がいました。彼は生まれつき右手の手首より先がなかったのですが、困難を理由に夢をあきらめるのではなく、自分にできる方法を探し抜き、ついにはメジャーのマウンドに立ちました。ヤンキース時代の1993年にはノーヒットノーランを達成しています。このことで、以前愛媛県にも義足の選手がいたことを思い出しました。2003年夏の甲子園に出場した今治西高校の曾我健太選手です。当時の監督は本校の宇佐美監督です。監督から「義足だからと言って特別扱いほしくない」と指導され、自分の努力でレギュラーをつかみ取ったと信じているという数年前のインタビュー記事が選手のその後という特集で掲載されていました。

彼らにとって、障がいは「できない理由」ではない、「どうすればできるか」を考え、努力を重ね続けたからこそ、夢を現実に変えたのです。彼らに共通しているのは、「できないことに目を向けるのではなく、できることを最大限に生かす」姿勢です。

私たち一人一人にも、苦手なこと、悩み、周囲に打ち明けられない課題があるでしょう。けれども、それを理由に立ち止まるのか、それとも挑戦を続けるのかで、未来は大きく変わります。

逆境を乗り越える力は、特別な人だけが持っているわけではありません。それを引き出す勇氣があるかどうかです。

二学期は行事も多く、3年生は具体的に進路実現に向けて一層努力をするべき時期です。ときに壁にぶつかり、自分の限界を感じることもあるかもしれませんが、しかし、自分の可能性を信じ、工夫と努力を重ねていけば、必ず道は開けます。

どうか皆さん一人一人が、自分に与えられた条件の中で最善を尽くし、仲間と支え合いながら、この二学期を歩んでいってください。皆さんの挑戦と成長を心から期待しています。